

リアルタイム天文データビューワー (Mitaka) の開発

A Realtime Astronomical Data Viewer, Mitaka

加藤 恒彦[1]; 武田 隆顕[1]; 林 満[2]; 小久保 英一郎[2]

Tsunehiko Kato[1]; Takaaki Takeda[1]; Mitsuru Hayashi[2]; Eiichiro Kokubo[2]

[1] 国立天文台; [2] 国立天文台

[1] NAOJ; [2] NAO

<http://4d2u.nao.ac.jp/>

国立天文台では4次元デジタル宇宙プロジェクトと銘打ち、最新の宇宙像を分かりやすくインパクトのある映像で一般に公開することを目的の1つとしたプロジェクトを進行している。(正式名:「4次元デジタル宇宙映像配給システムの構築」(研究代表者:観山正見))その一環として、最新の天文学のデータを使用して、地球や惑星のスケールから宇宙の大規模構造までシームレスに移動し、さまざまなスケールでの宇宙の構造をリアルタイムで可視化できるソフトウェアを開発している。このソフトウェアは、複数台のPCを用いて、偏光スクリーン上に立体視投影をすることができ、国立天文台の4次元デジタル宇宙シアターの投影用ソフトウェアとして使用されている。(われわれは、このソフトウェアを国立天文台の三鷹キャンパスにちなんで、Mitakaと名づけた。)ここでは、4次元デジタル宇宙プロジェクトの最新の成果報告と共に、Mitakaの紹介を行いたい。

このMitakaはすでにWWW上で公開をしており、立体視は出来ないものの一般のWindows2000/XP PC上で操作することが可能である。今後の改良点などについての意見がいただければ幸いである。